科目名	工業英語Ⅱ（English for Engineering Ⅱ）						
学　年	学　科(コース)	単　位　数		必修 / 選択	授業形態	開講時期	総時間数
第5学年	物質工学科	学修	1 単位	必修	講義	後期	45 時間
担　当　教　員	【常勤】　准教授　廣原　志保						

学　習　到　達　目　標

科目の到達目標レベル	①辞書を使用しなくても内容を把握できる。 ②英文の構成を理解できる。 ③重要な英文法を理解できる。

到達目標（評価項目）	優れた到達レベルの目安	良好な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安	未到達レベルの目安
到達目標①	科学英単語を含む英単語が書ける	科学英単語を含む英単語が3/4書ける	科学英単語を含む英単語が3/5書ける	科学英単語を含む英単語が書けない
到達目標②	英文の構成が理解できる	英文の構成が3/4理解できる	英文の構成が3/5理解できる	英文の構成が理解できない
到達目標③	英文法が理解できる	英文法が3/4理解できる	英文法が3/5理解できる	英文法が理解できない

学習・教育到達目標	(G)②	JABEE基準1（2）	(f)

達　成　度　評　価（%）

評価方法 / 指標と評価割合	中間試験	期末・学年末試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	35	35	15	15					100
知識の基本的な理解【知識・記憶、理解レベル】	◎	◎	◎	○					
思考・推論・創造への適用力【適用、分析レベル】	○	○		○					
汎用的技能【】									
態度・志向性(人間力)【　】									
総合的な学習経験と創造的思考力【　】									

関連科目、教科書および補助教材	
関連科目	工業英語I、化学全般
教科書	自作プリント配布
補助教材等	科学英語101（國安均著、化学同人）、やさしい化学英語（中村喜一郎、青柳忠克共著、オーム社）

学習上の留意点
予習および復習をすること。 復習の確認として、毎回の小テストを行う。また定期的にレポートを課す。 この教科は再試験を実施しないことから、小テストなど毎回しっかり勉強すること。

担当教員からのメッセージ
工業英語はグルーバル社会で他の人と専門内容を話しコミュニケーションをとるための重要な教科です。しっかり勉強して国際社会に通用する人材になっていきましょう。

授　業　の　明　細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 （予習・復習）
1	ガイダンス 図表表現	基本的な図表表現を用いることができる。	第1回目の内容について復習を行う。
2	色、形の表現	色、形の表現を理解できる。	第1回目復習のための小テストを行う。 第2回目の内容の復習および第3回目の予習を行う。
3	元素名	元素名を理解できる。	第2回目復習のための小テストを行う。 第3回目の内容の復習および第4回目の予習を行う。
4	無機化合物、有機反応名の発音と表現法1	無機化合物、有機反応名の発音と表現法が理解できる。	第3回目復習のための小テストを行う。 第4回目の内容の復習および第5回目の予習を行う。
5	有機化合物、生化学分野の名称の発音と表現法	有機化合物、生化学分野の名称の発音と表現法が理解できる。	第4回目復習のための小テストを行う。 第5回目の内容の復習および章末問題の予習を行う。
6	一般化学の英文1	一般化学の英文を理解できる。	第5回目復習のための小テストを行う。 第6回目の内容の復習および章末問題の予習を行う。
7	一般化学の英文2	一般化学の英文を理解できる。	第6回目復習のための小テストを行う。これまで習った範囲をレポートとしてまとめる。
8	**中間試験**		
9	一般化学の英文3	一般化学の英文を理解できる。	第9回目の内容の復習および第10回目の予習を行う。
10	無機化学の英文	一般化学の英文を理解できる。	第9回目復習のための小テストを行う。 第10回目の内容の復習および第11回目の予習を行う。
11	物理化学の英文	一般化学の英文を理解できる。	第10回目復習のための小テストを行う。 第11回目の内容の復習および第12回目の予習を行う。
12	有機化学の英文	一般化学の英文を理解できる。	第11回目復習のための小テストを行う。 第12回目の内容の復習および第13回目の予習を行う。
13	環境化学の英文	一般化学の英文を理解できる。	第12回目復習のための小テストを行う。 第13回目の内容の復習および章末問題の予習を行う。
14	プレゼンテーションに関する表現	学会発表(スライド説明)に用いる英語表現が理解できる。	第13回目復習のための小テストを行う。これまで習った範囲をレポートとしてまとめる。
	学年末試験		
15	まとめ	試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。 また授業評価アンケートを行う。	
総　学　習　時　間　数			45 時間
講　　義			30 時間
自学自習			15 時間